

基本理念 素案と原案との対比

参考資料 1

素案 (7月19日審議会資料)

原案への反映

●「変化」「未知」「長寿」の時代

- ①「幸せでありたい」。
- ②これは、年齢、性別、障害や病気の有無、国籍、立場、状況などに関わらず共通の思いです。
- ③「幸せ」の感じ方は、一人ひとりの価値観により異なります。そして、その価値観は時代によっても変わってきました。
- ④我が国は、・・・他の国々に先駆けて超高齢社会に突入しました。
- ⑤本県でも、・・・地域を支えてきたコミュニティのあり方や人と人のつながりなども大きく変わろうとしています。
- ⑥また、第4次産業革命と呼ばれる・・・
- ⑦さらに、2015年に発効したパリ協定により、・・・低炭素経済への移行が進展・・・
- ⑧このように、これから10年余りの間に、私たちを取り巻く経済、社会、環境に急激な変化が訪れ、しかもその変化は世界がこれまでに経験したことのないものとなるでしょう。
- ⑨一方、人類の平均寿命は延び続け、・・・「人生100年時代」が目前となっています。
- ⑩とりわけ本県は、・・・トップレベルの健康長寿県です。
- ⑪・・・誰もが長い人生をいつまでも自分らしく幸せと感じながら生きていくにはどうすれば良いのか、今後世界的に高齢化が進む中、世界のモデルとなるような姿を考え、発信していく必要があります。

●本基本構想が目指す姿

- ⑫・・・目指す将来の姿として、この「長寿」「変化」「未知」の時代に「誰もが滋賀で幸せに生きる」ために、
- ⑬全ての人の人権が尊重され、一人ひとりが自分らしく健やかな生活を送ることができ、画一的ではなく柔軟で多様なライフコースを選択することができる姿と、将来にわたり安心して自分らしく暮らすことができる基盤として、「経済」「社会」「環境」がバランスを取りながら、持続可能となっている滋賀の姿を描きます。

●つくる そだてる わかちあう

- ⑭人口減少等・・・が進む中では、「つくる」「そだてる」という視点に加え、みんなが少しずつ知恵や時間を出し合い、地域の色んな資源をみんなで共有し、将来世代とも豊かさを共有する、「わかちあう」という視点を欠かすことはできません。
- ⑮これは、・・・住民自治の精神や、・・・福祉の精神など、本県が大切にしてきた先人の考え方にも通じるものです。
- ⑯これらの視点により、県民一人ひとり、NPO、企業、大学等の多様な主体が共通の思いを持ち、目指す姿の実現に向け、それぞれが持てる力を発揮し、取組を自ら行うことが大切です。

- ①→○ L6 「幸せでありたい」
- ②→△ L6 「誰にも共通する思いです。」
- ③→× 記述なし
- ④→○ L13 「世界でも類を見ない人口減少・超高齢社会に突入した私たち」
- ⑤→× 記述なし
- ⑥→○ L14 「第4次産業革命と呼ばれる飛躍的な技術革新」
- ⑦→○ L14 「世界的な脱炭素化社会の進展」
- ⑧→○ L8、L15 「これまでの世界の常識が大きく変わるような歴史的な転換点に立っています」

- ⑨→○ L13 「人生100年時代と言われる長寿社会の到来」
- ⑩→× 記述なし
- ⑪→× 記述なし

- ⑫→△ L9 「この未知の変化に・・・誰もがいつまでも幸せを感じられる滋賀をみんなの力でつくります」
- ⑬→△ L23 「経済、社会、環境のバランスが取れていて、その中で誰もがいつまでも自分らしく心豊かに生きることができる、「未来へと幸せが続く滋賀」を、みんなの力を合わせてつくります。

- ⑭→× みんなが力を出し合わないといけない背景については記述なし
△ 「将来世代とも豊かさを共有する」については「未来へと幸せが続く滋賀」で表現
- ⑮→○ L17～L20 「古くから交通の要所であり～自分たちの力で地域を良くしてきた経験を持っています。」(これまでも変化に対応してきた、という要素を追加)
- ⑯→○ L10 「みんなの力でつくります。」 L24 「みんなの力を合わせてつくります。」

【新たに加えた要素】

●未知の変化に、柔軟に対応し、自ら変わり続ける

- L9 「この未知の変化に柔軟に対応し、私たち自らが変わるにより」
- L22 「今直面している未知の変化にひるむことなく、先人の知恵や経験を生かしながら、自ら変わり続ける必要があります。」

3 基本理念

人生 100 年時代 滋賀で幸せに生きる

～ つくる そだてる わかちあう ～

●「変化」「未知」「長寿」の時代

「幸せでありたい」。これは、年齢、性別、障害や病気の有無、国籍、立場、状況などに関わらず共通の思いです。「幸せ」の感じ方は、一人ひとりの価値観により異なります。そして、その価値観は時代によっても変わってきました。

我が国は、世界に類を見ない速さで高齢化が進み、他の国々に先駆けて超高齢社会に突入しました。本県でも、全国より少し遅いペースで、しかし確実に人口減少と高齢化が進んでおり、社会保障の問題をはじめ、これまで歴史文化や伝統行事などを通じて地域を支えてきたコミュニティのあり方や人とのつながりなども大きく変わろうとしています。

また、第 4 次産業革命と呼ばれる IoT、AI、ロボット技術等の飛躍的な技術革新は、産業はもとより、社会の仕組みや私たちの身近な生活などを数年のうちに一変させる可能性があります。地理的な優位性などを背景に研究機関やマザー工場などの集積が進み、高度なモノづくりや、環境に配慮した農林水産業などの特徴を有している本県ですが、こうした飛躍的な技術革新やその成果を産業や社会にうまく取り入れることができるかどうか、今後の本県のさらなる発展の鍵を握っていると言えます。

さらに、2015 年に発効したパリ協定により、温暖化対策のため世界中で低炭素経済への移行が進展し、一定のエネルギー制約下での経済成長が求められます。これは、我が国にとっても、世界にとっても避けては通れない、非常に大きなチャレンジです。

このように、これから 10 年余りの間に、私たちを取り巻く経済、社会、環境に急激な変化が訪れ、しかもその変化は世界がこれまでに経験したことのないものとなるでしょう。

一方、人類の平均寿命は延び続け、「日本では、2007 年に生まれた子どもの半数が 107 歳より長く生きる」との研究成果が報告されているなど、「人生 100 年時代」が目前となっています。とりわけ本県は、世界トップレベルの平均寿命を誇る我が国の中でも、トップレベルの健康長寿県です。変化のスピードが速く先の見通しが難しいこの時代に、誰もが長い人生をいつまでも自分らしく幸せと感じながら生きていくにはどうすれば良いのか、今後世界的に高齢化が進む中、世界のモデルとなるような姿を考え、発信していく必要があります。

●本基本構想が目指す姿

そこで本基本構想では、目指す将来の姿として、この「長寿」「変化」「未知」の時代に「誰もが滋賀で幸せに生きる」ために、全ての人の人権が尊重され、一人ひとりが自分らしく健やかな生活を送ることができ、画一的ではなく柔軟で多様なライフコースを選択することができる姿と、将来にわたり安心して自分らしく暮らすことができる基盤として、「経済」「社会」「環境」がバランスを取りながら、持続可能となっている滋賀の姿を描きます。

1

2 ●つくる そだてる わかちあう

3 人口減少等によりコミュニティの弱体化等が進む中では、「つくる」「そだてる」という視点に加え、
4 みんなが少しずつ知恵や時間を出し合い、地域の色々な資源をみんなで共有し、将来世代とも豊かさを
5 共有する、「わかちあう」という視点を欠かすことはできません。

6 これは、美しい自然や景観、文化を自らの手で守るという住民自治の精神や、お互いに支え合いなが
7 ら生きる福祉の精神など、本県が大切にしてきた先人の考え方にも通じるものです。

8 これらの視点により、県民一人ひとり、NPO、企業、大学等の多様な主体が共通の思いを持ち、目指す
9 姿の実現に向け、それぞれが持てる力を発揮し、取組を自ら行うことが大切です。

10

11